



児童相談所の虐待対応件数と虐待相談

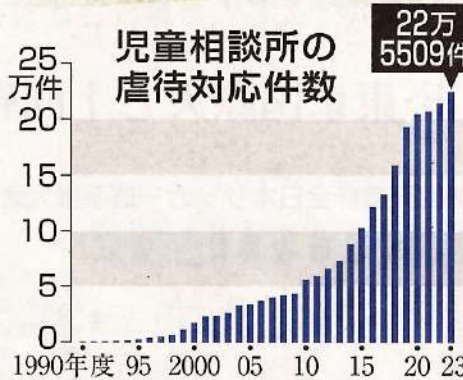
東京都の江戸川区児童相談所

虐待相談 (2023年度)

性的虐待 2473



※厚生労働省、こども家庭庁による



児童虐待 過去最多

心を傷つける心理的虐待で、その中では、子どもの前で家族に暴力をふるう「面前DV」が7万8914件もありました。増えている背景には、だれにも相談できずに子育てをして行きづまってしまう親がいることのほか、虐待かなと思った時にすぐに通報ができる全国共通のダイヤル「189（いちばやく）」ができたこととあるとみられます。

33年連続で増え22万件

心を傷つける 6割

虐待相談をしたのは、警察が11万6649件（51・7%）、近所の人や知り合いが2万2112件（9・8%）、家族や親戚が1万9196件（8・5%）、学校が1万6583件（7・4%）でした。暴力をふるわれた、ひどいことを言われた困った時は、学校の先生や信頼できる大人に相談しましょう。ダイヤル189でもだいじょうぶです。（柳谷久義）

相談所「負担重く

児童虐待の件数が増えるにつれ、対応する児童相談所の負担も重くなっています。虐待の最初の連絡を受けてから原則48時間以内に子どもの安全をかくにんするルールがあることなどから、いそがしさのあまり辞めてしまう職員もいます。



安全かくにんのためには、「児童福祉司」などが家庭を訪問します。東京都の江戸川区児童相談所によると、共働きが増えて日中は家にいない家庭も多く、訪問できるのが夜になってしまつことも少なくありません。親との面談は1時間ほどかかり、その内容を記録にまとめる作業も大変です。国は児童福祉司の採用を増やす取り組みを進めています。しかし、体や心の調子をくずして退職する人も目立つため、児童相談所の仕事を役所や民間団体にもふり分けていく必要があるとの指摘があります。（柳谷久義）

「こども家庭庁が入る」「霞が関ビルディング」

2023年4月、東京都千代田区